

哲 學 研 究

第 九 卷 第 十 一 冊

第 四 百 號

大 正 十 三 年 一 月 一 日 發 行

教育目的としての價值體系……………文學士 伊藤猷典

das Reale 及 das Ideale……………文學士 西谷啓治

武士道の起源及び特質……………文學士 高橋俊乘

彙報其他……………

京 都 帝 國 大 學 文 學 部
京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達セシメ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究会ヲ開ク
 - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
伊藤	植田	狩野	小西	高坂	高村	澤村	高瀬	田邊	千葉	朝永	西田	野上	波多	深田	藤井	松本	務臺	米田	文學博士	文學博士
猷典	壽藏	直喜	重直	正顯	專太	武次	瀨次	邊胤	十郎	三郎	幾多	俊夫	精一	康算	健治	文三郎	理作	庄太郎	文學博士	文學博士

京都哲學會秋季講演大會

十一月廿二日午後一時半より

法學部大講堂に於て

時の樣態に就て

文學士 務臺理作君

勞作教育の問題

文學博士 小西重直君

前 號 目 次

山鹿素行に於ける士道論的思想の發達……………	文學士	加藤仁平
武士道の起原及び特質(三)……………	文學士	高橋俊乘
自由の可能に就て(承前)……………	文學士	世良壽男
内部知覺について……………	文學博士	西田幾多郎
フィロストラトスの「構想力」……………	文學博士	深田康算

告 會

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候

二、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切ノ事務ハ内外出版株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候

三、會費ハ振替口座大阪登〇六六三番、内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候

四、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部内 京都哲學會

定 規 文 註

- ◎ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候
- ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候
- ◎ 振替貯金にて御送金は(振替大阪三三九五番三三三三番東京三三三三番)内外出版株式會社宛に願上候
- ◎ 前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すへきに付直に御拂込下され度候
- ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

價 定

冊	數	定	價	郵	稅
一	冊	金	四拾錢	金	壹錢
六	冊(前金)	金	貳圓四拾錢	不	申
十二	冊(前金)	金	四圓八拾錢	不	申

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十三年十月廿五日印刷納本
大正十三年十一月一日發 行

第百四號 第九卷 第十一册

不許複製
禁轉載

編輯者 京都帝國大學文學部内
右代表者 伊藤 猷 典
發行者 大谷仁兵衛
印刷者 須磨勘兵衛
印刷所 内外出版株式會社印刷部
京都市三條通御幸町西入五十四番地
京都市北區通新町四入

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版株式會社

本社 京都市下京區西洞院通七條南
出張所 京都市京橋區加賀町十番地
販賣所 京都市神田區錦町一ノ一

賣捌所 (東京) 東京堂 東海堂 北隆館
(大阪) 盛文館 三誠堂
(神戸) 寶文館 川瀨書店
(京都) 共盛社 大盛社